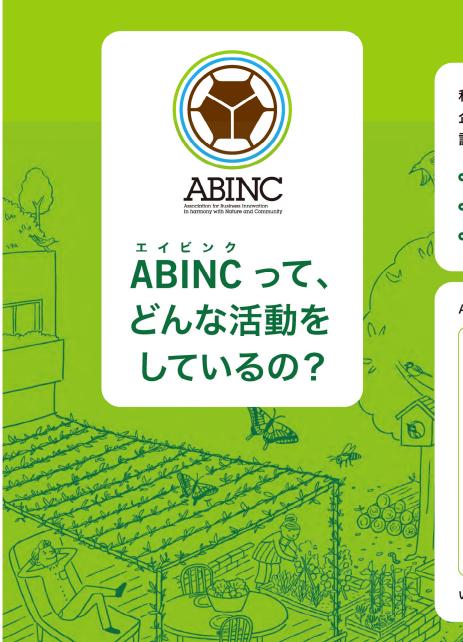




緑地における生物多様性保全への配慮から、 まちづくり全体へのSDGsの貢献へ (ABINC ADVANCEの紹介)

一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会 企画部会 浦瀬 勇真 (大日本コンサルタント株式会社)

ABINCについて



私たちABINCは、自然と共生した持続可能な未来をつくるために、 企業ビジネスの中で豊かな社会づくりに貢献する施設を 評価・認証する活動などを行なっています。

- 豊かな生態系づくりに配慮した施設を評価・認証する事業
- o いきものを通じて自然への理解を深めるコミュニケーション活動
- o 自然と人が共生するための取り組みを普及・啓発・研究する事業

ABINC 認証は、「SDGs=持続可能な開発目標」への貢献にもなります。



いきものの視点から社会課題の解決に役立ちます。



ABINCの概要

ABINCの活動理念

ABINCは、「自然と共生する世界」を実現するための企業活動支援や広報の活動を行いながら、科学的・技術的な検証も実施することで、いきものと人が共生できる仕組みを持続させてゆくことを目的として設立されました。

ABINC 認証事業所 (サイト) とは

JBIB(一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ)が開発した、いきもの共生事業所®推進ガイドラインの考え方に沿って計画・管理され、かつ土地利用通信簿で基準点以上を満たし、当審査過程において認証された事業所をさします。

ABINC認証の概要

対 象 工場・オフィスビル・商業施設・集合住宅・物流施設・戸建住宅団地等

で、生物多様性に配慮した建築自体または緑地を計画または配置して

いるものを対象とします。

審 査 方 法 いきもの共生事業所®推進ガイドライン等に基づいてABINC審査員お

よび認証委員会が主に申請書類の審査を行います。

認証書交付 ABINCホームページ、関連媒体等で認証結果を公表します。

および公表

認証表示 認証を受けた申請者は、対象建築物等に認証ロゴを表示することがで

きます。

有効期間 認証交付日から起算し3年とします。ただし竣工前の対象建築物につい

ては、完全竣工日から起算し3年とします。

団体概要(2020年6月現在)

設立 2013年12月25日

役員

会長 森本幸裕 京都大学 名誉教授

副会長 原口 真 一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ 顧問 理事 黒田大三郎 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 シニアフェロー

足立直樹 一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ 理事・事務局長

村山顕人 東京大学 大学院工学系研究科 准教授

監事 梶谷 修 一般社団法人 日本環境アセスメント協会 会長

中山隆太郎 中山隆太郎税理士事務所 代表

顧問 川廷昌弘 一般社団法人 CEPA ジャパン 代表

窪木登志子 窪木法律事務所 代表

会員企業(20社:関連会社含む、2020年6月現在)

- ・MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス株式会社
- ・MS&ADインターリスク総研株式会社
- ·株式会社環境指標生物
- ·株式会社熊谷組
- ・株式会社グリーンフィールド
- ·清水建設株式会社
- · 住友林業株式会社
- · 住友林業緑化株式会社
- ・大日本コンサルタント株式会社
- ・株式会社竹中工務店

- ・大和ハウス工業株式会社
- · 株式会社地域環境計画
- ・東邦レオ株式会社
- ·株式会社日本設計
- ·特定非営利活動法人 NPO birth
- ・株式会社日比谷アメニス
- ・株式会社プレック研究所
- ・株式会社ポリテック・エイディディ
- ·三菱地所株式会社
- ·株式会社三菱地所設計

(敬称略 五十音順)



認証事業について



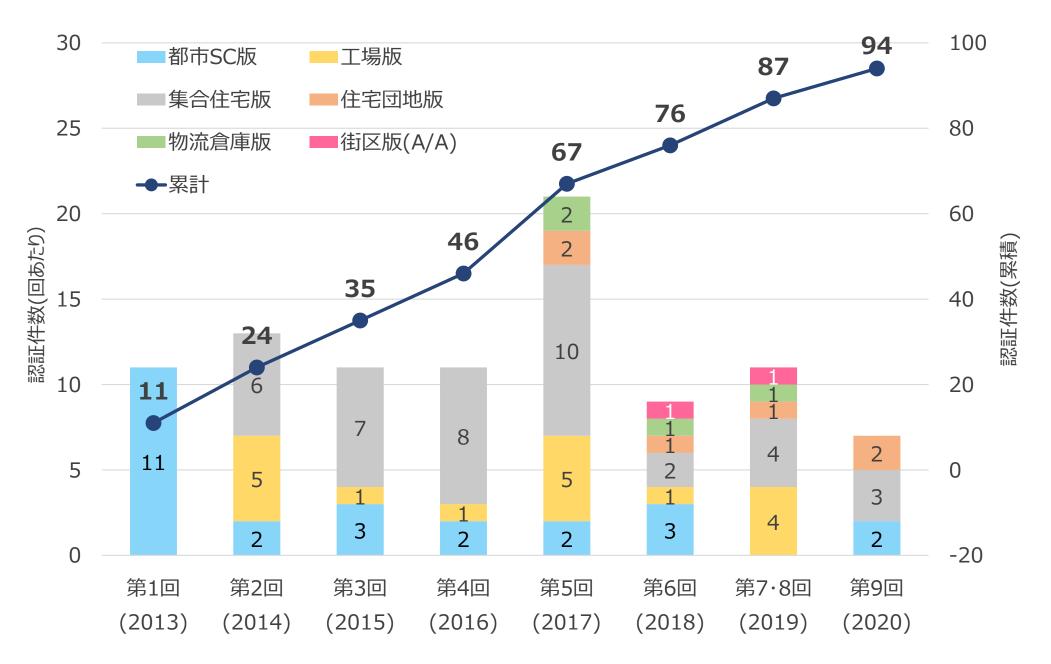


認証事業について





認証件数





認証のメリット

ABINC 認証を受けると、こんなメリットがあります

ABINCはJBIBが作成したガイドラインに沿って生物多様性に配慮した企業の取り組みを評価する、信頼性の高い認証制度です。 認証を受けることで、環境に配慮した活動を社会に広く知ってもらうことができるだけでなく、さまざまな環境性能評価に応用 することも可能であり、長期的な視点で不動産としての価値を向上させることにもつながります。

Value

これまではコスト要因と考えられがちであった「緑地」に「新しい価値」を見い出すことで、不動産価値を向上させます。

Prize

第 1 回 ABINC 賞 優秀賞 (都市 SC 版)

三 井住友海上駿河台ビル/駿河台新館
 平成 28 年10 月21 日

ABINC認証を取得した 事業所のうち、特にすぐ れた取り組みと評価さ れたものにはABINC賞 が授与されます。

NetworkCommunication

ABINCの発信するニュースレターにより、 生物多様性に関する取り組みの最新情報 などを共有することができます。

ABINC 認証

6つの メリット

SustainabilityGoals

生物多様性の活動に取り組む指標となるとともに、コンセプト立案・緑地活用・維持管理などの目標設定に役立ちます。

Pride

「いきものに配慮した緑地」をつくり活用する 取り組みに対する評価を、社会にわかり やすい形で示すことができます。

CertificationTrust

「CASBEE不動産マーケット普及版」「DBJ グリーンビルディング認証」「GRESB認証」 などの環境性能評価にも利用が可能です。



ABINC ADVANCEの開発の背景

- ▶ 持続可能な開発目標(SDGs)の採択と民間セクターへの期待、 ESG投資の拡大、グリーンインフラの効果など、世界のトレンドを踏ま えた新たな認証制度の必要性
- プポスト愛知目標を見据え、東京オリパラの開催国である日本から世界に発信することの重要性や期待の高まり



- ➤ 広い視野で統合的な課題 解決を目指すSDGsの理念 にも合致する、持続可能な 「まちづくり」への貢献を評価 するツールとして開発に着手
- ➤ LEEDやSITESなど欧米主体の認証制度との親和性にも考慮



SDGs@wedding cake



ABINC ADVANCEの特徴

- → 一般的な外構設計にありがちな「見た目の良さ」だけでなく、地域の サスティナビリティの根幹となる自然資本としての「質」のあるべき姿を 追求
- ▶ これらを適切に評価するため「持続可能なまちづくり」に対する評価と 「生物多様性保全に貢献する取り組み」の内容をそれぞれ点数化し、 それらを掛け合わせることで評価点を算出
- ▶ 持続可能なまちづくりは、生物多様性の保全に関する取り組みを通じて地域課題の解決に資するかどうかを定性的に評価
- ▶生物多様性保全に貢献する取り組みについては、点(植栽する樹種)から面(面積的な広がり)、空間(緑地の階層構造)を経て、時間軸(適切な維持管理)をも考慮



ABINC ADVANCE (Ver.1) の評価項目

ABINC ADVANCEのみの評価項目

第Ⅰ章

サステナビリティ (SDGs)

事業コンセプトと緑地計 画の一貫性

対象街区での生物多様 性保全の取り組み

地域課題への貢献

第Ⅱ章

土地利用の検討

土地利用への配慮

環境アセスや協力体制

申請街区内での環境認 証の取得状況

生の創出

配慮

地域に根ざした植

動物の生息場所

や移動経路への

論述 方式

加算 方式

最終 評価点※

第Ⅲ章

環境づくり

生物多様性に貢 献する面積の大 きさ

立体的な緑の量

まとまりのある緑 地づくり

質の高い屋上や 壁面緑化

周辺環境との調

植生を支える土 壌の厚み

モニタリング

緑地の活用

第IV章

維持管理と活用

維持管理体 制の構築

緑地管理規 定の策定

モニタリング 調査

結果の活用

その他の生物多様性保全に貢献する取り組み

第Ⅴ章

ボーナスポイント

※最終評価点=√第Ⅰ章の点数 × 第Ⅱ~Ⅴ章の合計点



ABINC

ABINC ADVANCE認証施設





名称

晴海五丁目西地区市街地再開発事業(HARUMI FLAG)

申請者

三井不動産レジデンシャル、NTT都市開発、日鉄興和不動産、住友商事、住友不動産、大和ハウス工業、東急不動産、東京建物、野村不動産、三菱地所レジデンス、三井不動産、東京都

住所

東京都中央区晴海五丁目501番他

HARUMI FLAGは13.3haの広大な土地に、分譲・賃貸・商業施設を含めた24棟を建築し、5,632戸の住宅・保育施設・介護住宅なども整備し、人口12,000人となる街づくり計画です。海と緑の共生、生物多様性に配慮した環境創造型プロジェクトとして新たな東京の顔となる未来に誇れる街を目指します。

名称

あさかリードタウン

申請者

積水化学工業株式会社、東京セキスイハイム 株式会社

住所

埼玉県朝霞市根岸台三丁目

本事業は朝霞市のご協力のもと積水化学グループの総合力を結集したまちづくりである。生物多様性の保全に貢献する緑地づくりを行い、緑地を触媒とした地域コミュニティ醸成を図り、スマートシティの技術を通じた地域のレジリエンス強化や地域経済活性化等、経済・社会・環境の統合的課題解決に資する生物多様性の保全を行うことを目的としています。

HARUMI FLAG

①周辺地域+街区内での 生態系ネットワークの創出

計画地が周辺に点在する緑地の中間に位置することを踏まえ、周辺地域の生物の有機的なネットワークの構築に資する重要な結節点としての緑・水辺を創出していること

②海に浮かぶ緑の環境都市

⇒ 海から都心へ導く「風の道」を保全し、緑に包まれた四季を彩る多様な景観変化が感じられ、生物多様性や地域植生にも配慮することを念頭に置いた植栽計画であること。



HARUMI FLAG

③魅力的な緑の都市空間創出

▶ 自然を通じた出会い、憩い、交流、 賑わいの機会を生む緑・水辺空間 を創出していること(住む人がいき いきと暮らせる街を目指し、人々に 親しまれ、利用される緑・水辺を創 出していること)



④多主体連携による緑の保全

グリーンインフラの考えを踏まえ緑や生態系が持つ様々なサービスを最大限に発揮させ、かつ、持続的に利用するため、複数の事業者に渡る多様な主体の連携により緑地計画の策定・維持管理を行っていること



あさかリードタウン

①まちづくりを通じた課題解決

▶ 地域課題を踏まえ、SDGs への取組の一環として、生物多様性保全を通じた地域課題の解決に貢献するハード面・ソフト面の様々な仕掛けが計画されていること

②事業者による高い取組意欲

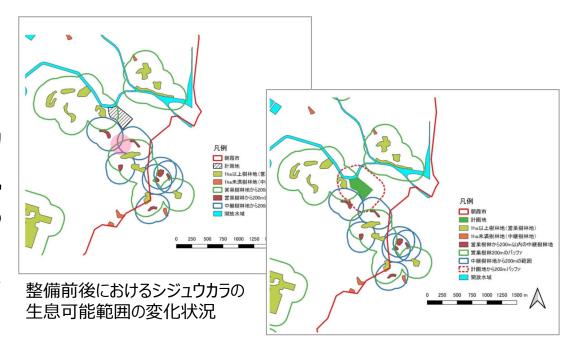
➤ 先行分譲した集合住宅での単体での認証取得に加え、計画初期段階からの行政・NGOなど様々なステークホルダーとの協働や、計画段階認証以降に商業街区・福祉施設も申請範囲に含めたこと



あさかリードタウン

③GISを用いた 生態系ネットワークの解析

▶ 誘致目標種のエコロジカルネットワーク解析から、計画地の取組が地域の生態系ネットワークを補完すると分析し、さらに計画地内の公園・街路・居住地外構がネットワークで繋がるよう検討していること



④自然資本の積極的活用

計画地に隣接する黒目川の河川 敷を含めた整備と維持管理への主 体的な関わりや、水辺の環境を活 かしたレインガーデンの整備など、自 然資本を積極的に活用した計画で あること





- ➤ ABINC ADVANCEは、自然資本(生物多様性)の価値を定量的に評価し、将来にわたって維持していくことを高いハードルで要求
- ▶ これまでの「開発/建設」がゴールでは無く、適切な維持管理によって成長し続ける「まち」への期待は、今後ますます高まっていく
- ⇒環境アセスメントの切り口で考えると、保全対策(最小化や代償) としての位置づけから、積極的な環境改善、すなわち開発事業その ものの価値を向上するための取組へと変化していくと想定され、ポジ ティブ・インパクトを評価できる手法や認証制度が必要となる
- ➤効果の検証と透明性の拡大、GI評価手法の検討、自然との適切 な距離、都市における価値(環境性→健康・快適・安全)など・・・



